

2008年9月19日
日本銀行決済機構局

次世代RTGS第1期対応にかかる総合運転試験フェーズⅡ（第3回）の結果について

2008年9月7日（日）に実施した、次世代RTGS第1期対応の総合運転試験（RT）フェーズⅡ第3回の試験結果の概要は次のとおりです。

- * RTフェーズⅡは、市場関係者に企画していただくテスト内容に沿って、本番環境に極力近い環境で、次世代RTGS導入後の新しい市場慣行に基づく取引・決済の運営を実践的に確認するフェーズです。
- * RTフェーズⅡ第3回では、288の金融機関等が参加し、想定日（短期金融市場取引の繁忙日である6月30日）の実取引データをもとに、次世代RTGS導入後を想定した支払指図の投入パターンや同時決済口において確保すべき流動性水準、各種市場慣行の実効性等を確認しました。

1. 試験結果の概要

- システム環境面では、前2回と同様、日本銀行側、参加先側ともに大きな問題なく終了しました。
- 試験内容面についても、当座勘定（同時決済口）における決済は全体として円滑に進捗することが確認できました。取引件数、金額とも前2回を上回ったにも関わらず、これらと同程度の平均決済時刻が達成されました。

* 参加先から頂いた結果報告書の集計結果は別紙1、RTにおける決済データの集計結果は別紙2のとおりです。

- このうち当預取引（主に市場取引）についてみると、短期金融市場取引の繁忙日においても、円滑な決済が達成可能であることが確認できました。また、今回は、次世代RTGS第1期対応の稼働開始と同時期に更改を予定している短資取引約定確認システムを用いて取引が行われましたが、同システムも順調に稼働したことが確認できました。もっとも、少数ながら、決済口座を誤って支払指図を送信したケースが引き続き見られましたので、当座勘定（同時決済口）の開設予定先におかれては、取引の種類毎に決済口座を改めて確認しておくことが必要と考えられます。

外為円決済取引については、一部の先を除き、外国為替円決済制度の支払指図電文の送信に関する申合せ（紳士協定）¹を遵守する形で決済が進捗しました。

* 短期金融市場取引活性化研究会による市場取引に関する評価は別紙3、東京銀行協会による外国為替円決済制度に関する評価は別紙4のとおりです。

¹ 外為円決済取引については、午前11時までに1日の同時決済口支払指図の取扱量のうち、件数の65%、金額の55%(待機された同時決済口支払指図を含む)を送信するものとする。なお、同時刻までに決済される当該支払指図についても同様の進捗率となるよう必要資金の当座勘定（同時決済口）への投入等により確保するよう努めるものとする。

2. 今後の予定等

- RTフェーズⅡの第1回から第3回までの結果を踏まえると、「本番環境に極力近い環境で、新しい市場慣行に基づく取引・決済の運営方法を実践的に確認する」という所期の目的は十分に達成されたと考えられます。このため、当座勘定（同時決済口）の開設予定先に対しては、すでに、予備日（9月21日）を利用した追加RTを実施しないことをご連絡したところ です。
- 試験参加先におかれましては、休日における対応や結果報告書の提出等、約4ヶ月間に亘って多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。10月14日（火）の稼働開始に向け、RTにおいて洗い出された事務処理上の問題点を解消することを含め、最終的な準備作業を進めていただきますようお願い申し上げます。
- 日本銀行としても、万全な体制で稼働開始させるべく、引き続き入念に準備を進めていく所存です。

以上

<本件に関する照会先>

日本銀行 決済機構局 決済企画担当 代表電話番号 03-3279-1111
田尾 一輝（内線 2963） 猪又 祐輔（内線 2957）
電子メール post.rtgsxg@boj.or.jp

R T フェーズ II (第 3 回) 結果報告書の集計結果

< 貴社において事前に予定していた試験内容を問題なく実施できましたか >

問題なく実施できた	一部実施できなかった
284 (98.6%)	4 (1.4%)

* 括弧内は、R T フェーズ II (第 2 回) の全参加先に占める構成比。

< 問題のあった点、実施できなかった点 (例) >

決済口座相違	同時決済口で決済されるべき取引が通常口で決済されてしまった。
送信・決済遅延	オペレーションミス (同時決済口残高のモニタリング不足等) により外国為替円決済制度の紳士協定が遵守できなかった。

RTフェーズⅡ（第3回）における決済データの集計結果

1. 当座勘定（同時決済口）における取引件数および金額

	第1回		第2回		第3回	
	件数	金額(億円)	件数	金額(億円)	件数	金額(億円)
当預	6,222	378,579	6,115	375,218	8,157	463,086
外為	33,605	237,216	41,491	279,804	45,801	269,373
合計	39,827	615,795	47,606	655,022	53,958	732,460

* 当預は「振替依頼（同時決済口）」、「振替依頼・付記電文付（同時決済口）」、外為は「BANK TRANSFER (QUEUE OFFSET)」、「CUSTOMER TRANSFER (QUEUE OFFSET)」。

* 結果として取り消された取引も含む。第2回における「BANK TRANSFER (QUEUE OFFSET)」中、1件当り金額が5兆円以上の取引2件（いずれも入力直後に取消された）については集計の対象外とした。

2. 平均決済時刻と待機時間

単位は“時：分：秒”（金額加重平均）

		第1回	第2回	第3回
当預	平均送信時刻	11:05:04	11:01:54	11:03:58
	平均決済時刻	11:17:47	11:06:32	11:10:00
外為	平均送信時刻	10:41:16	10:52:03	10:42:38
	平均決済時刻	10:51:52	11:03:45	10:56:48
合計	平均送信時刻	10:55:54	10:57:42	10:56:07
	平均決済時刻	11:07:48	11:05:21	11:05:09

待機時間別決済件数（構成比）と平均待機時間（単純平均）

待ち行列の待機時間	第1回	第2回	第3回
0分	85.1%	87.9%	80.0%
00-15分	8.6%	7.2%	10.8%
15-30分	3.2%	2.4%	6.9%
30-60分	1.7%	2.2%	2.0%
60分以上	1.5%	0.3%	0.4%
平均待機時間（単純平均 “時：分：秒”）	0:02:58	0:02:07	0:03:17

* 金額加重平均は、（金額と時間の積の総合計）/（金額の総合計）により算出。取り消された取引は、取り消された時刻を決済時刻とみなした。

* 待機時間は、指図が投入されてから決済されるまでの時間（取消の対象となった取引は指図投入時点から取消時点までの時間）。

3. 同時決済口に投入された流動性等

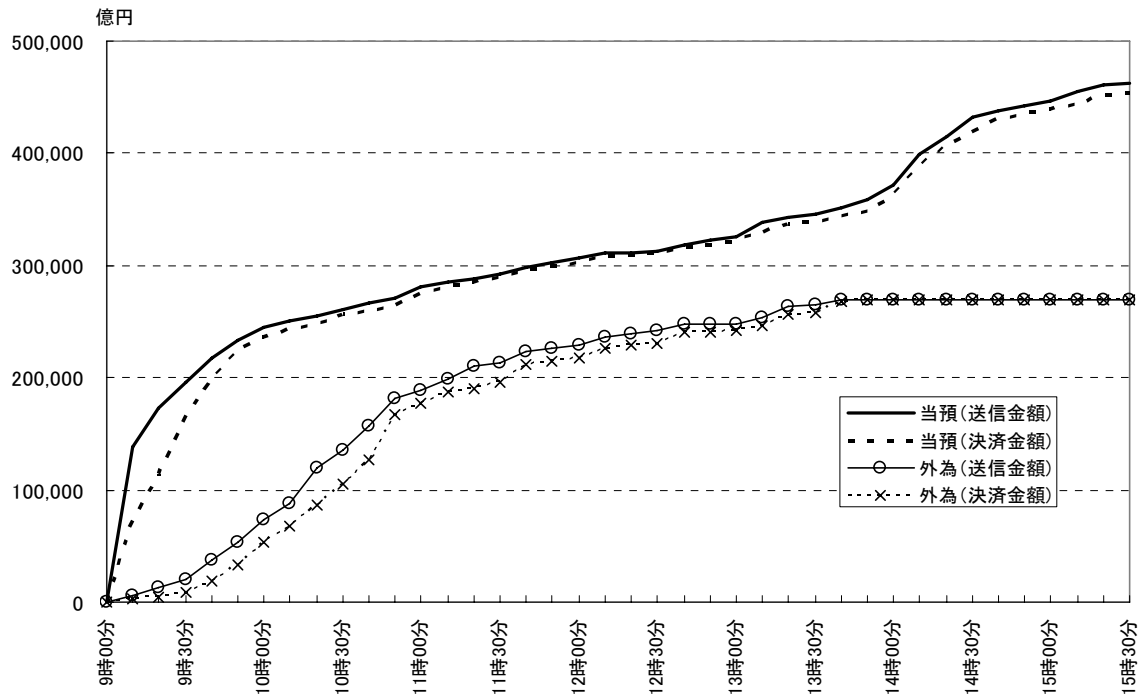
単位は億円

	第1回	第2回	第3回
同時決済口の残高（9:20時点）	99,202	74,815	99,096
同時決済口の残高（10:00時点）	120,600	104,468	159,027
同時決済口の残高（ピーク推計）	123,210	108,940	162,415
仕向超ピーク額計	184,416	184,146	208,327
ネット負け尻額計	43,639	41,307	65,723

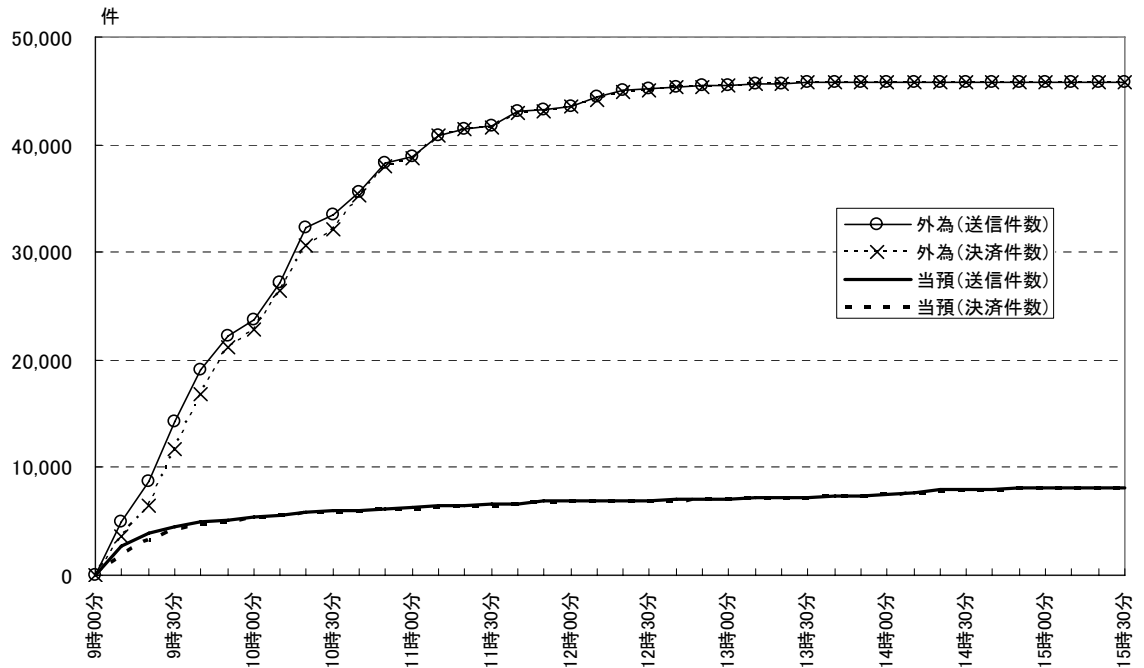
* 同時決済口の残高は、RTで実際に行われた自己勘定間振替から振替金額が極端に大きい先の取引（第1回：3先7件、第2回：1先2件、第3回：3先6件）を控除したうえで算出。

(参考図表) RTフェーズⅡ(第3回)における決済進捗

【金額ベース】



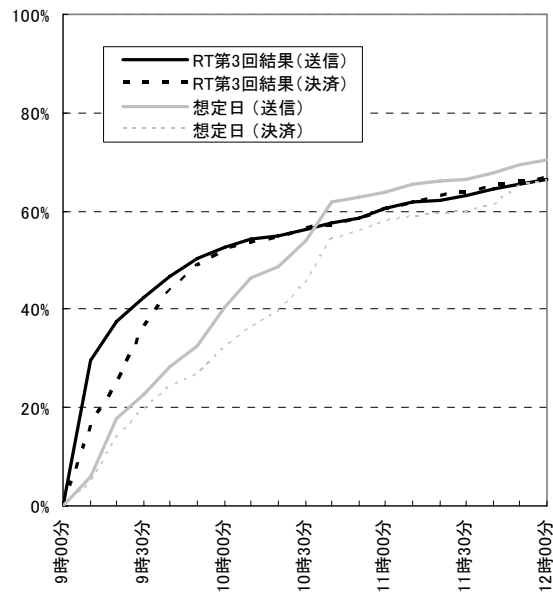
【件数ベース】



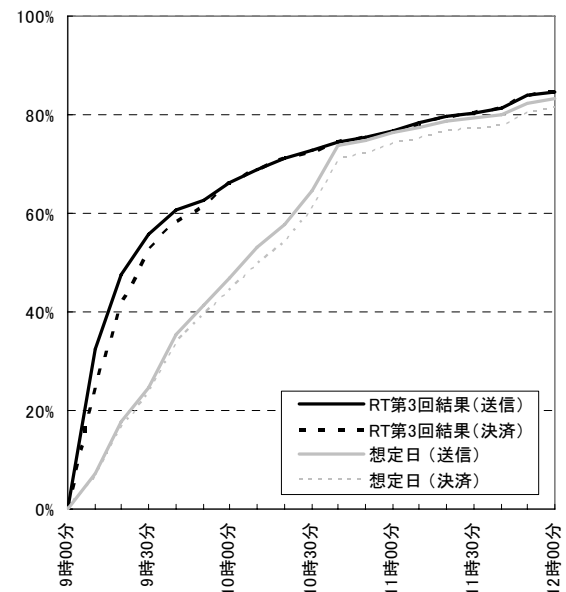
* 試験においては当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定(実際の運用では通常日が16:30、月末等延長日は17:30となる)。

(参考図表) RTフェーズⅡ(第3回)と想定日(6月30日)における決済進捗の比較

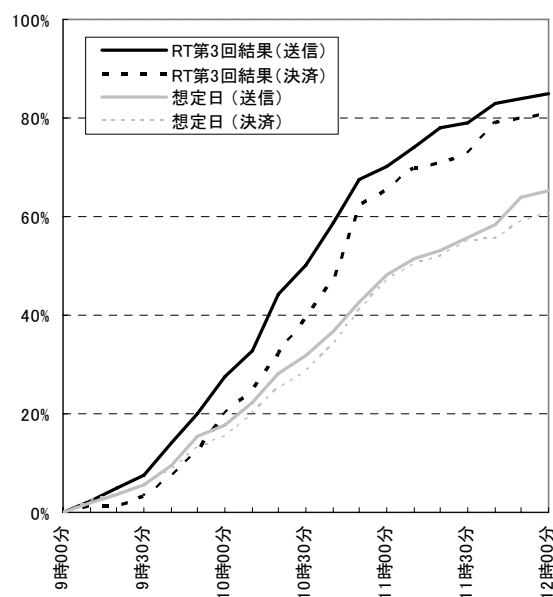
【当預取引 金額ベース】



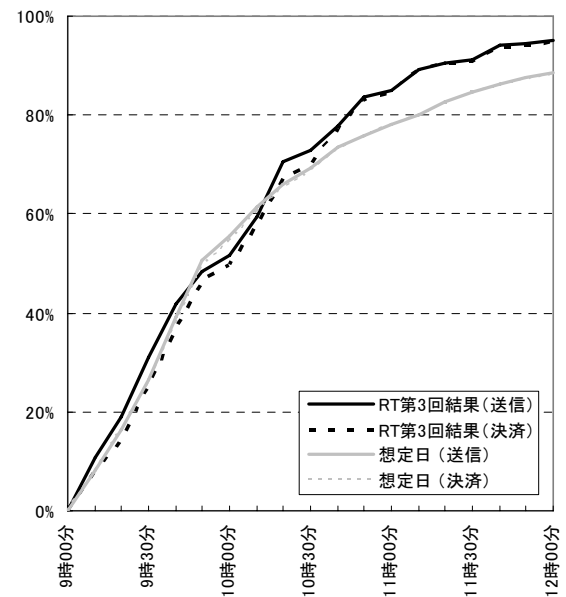
【当預取引 件数ベース】



【外為取引 金額ベース】



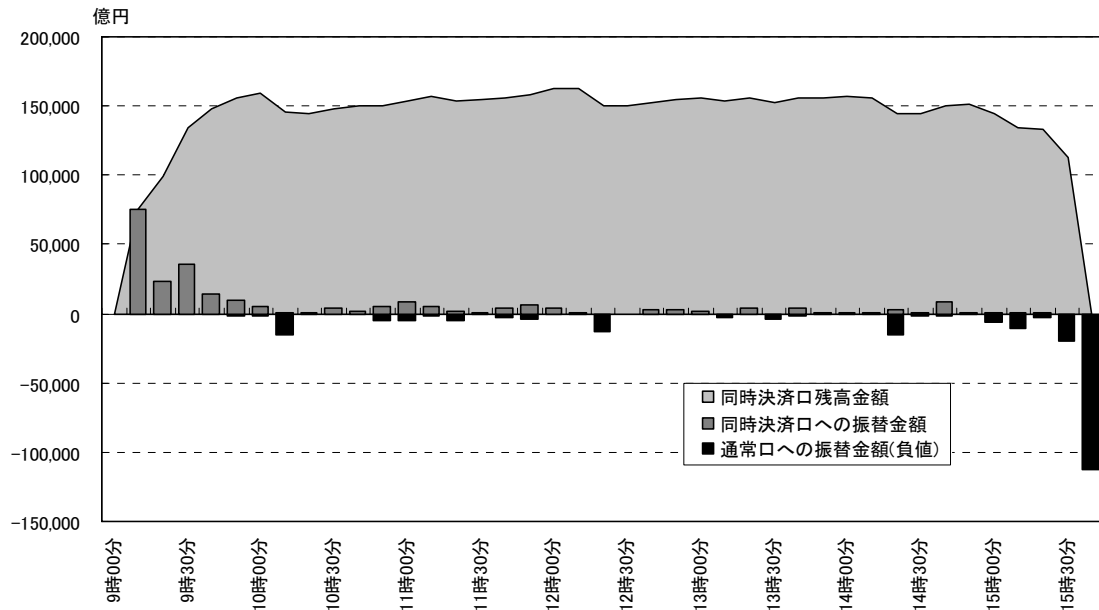
【外為取引 件数ベース】



- * 1日の送信件数(RTにおいて結果として取り消された取引も含む)を100%とした場合の累積進捗率。
- * RT結果と想定日(6月30日)では、ベースとなる取引が異なる。
 - ・ 想定日における取引の全てがRTにおいて同時決済口で決済されるとは限らない(市場取引であっても相対での合意により通常口で決済されるものがあるなど)。
 - ・ RTでは想定日に行われた取引以外にも試験用の仮想取引が行われている。
- * 「想定日(決済)」は、想定日の実取引データを元に行った事前シミュレーションの計数(各先の流動性投入水準を仕向超ピーク額の50%としたケース。シミュレーション手法については「次世代RTGSプロジェクト通信 第2号」を参照)。

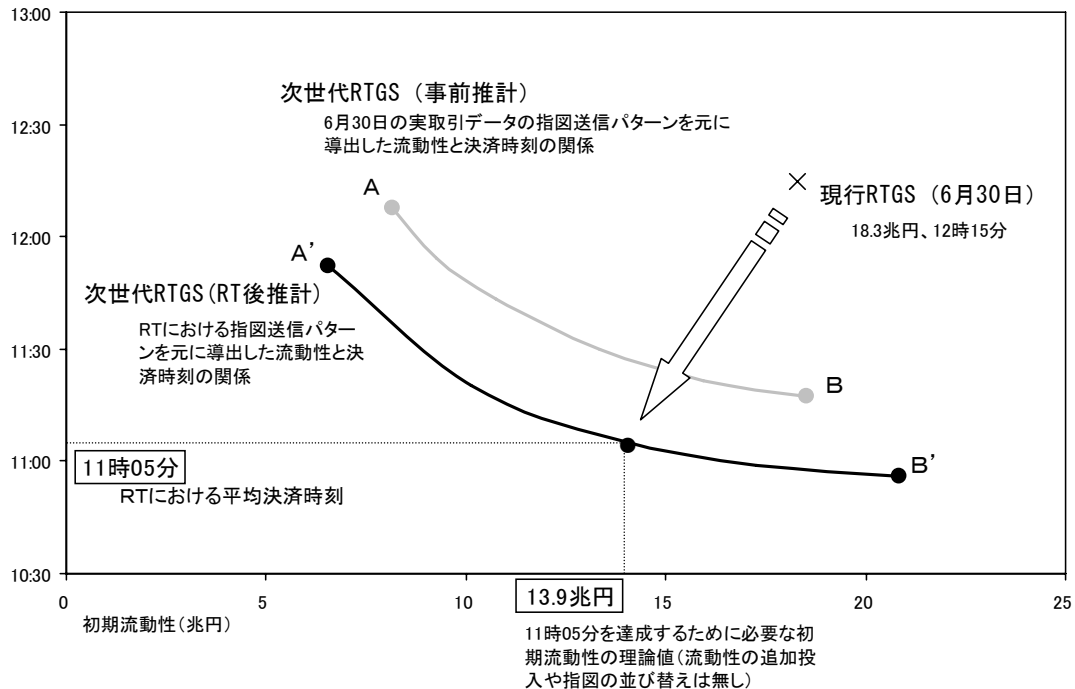
(参考図表) RTフェーズⅡ(第3回)における流動性と決済時刻

【自己勘定間振替と同時決済口残高の日中推移】



- * 自己勘定間振替とは、参加者による自己の当座勘定(同時決済口)と既存の当座勘定(通常口)との間の資金の振替をいう。
- * RTで実際に行われた自己勘定間振替から、同時決済口への投入金額が極端に大きい(10兆円以上)先の取引(3先、6件)を控除した。

【所要流動性と平均決済時刻】



- * 「現行RTGS」は、当預はRTGS、外為は14:30に時点ネット決済される下で実現した平均決済時刻とそのために必要な初期流動性の水準。
- * 点AおよびA'は、初期流動性をネット負け戻とした場合、点BおよびB'は仕向超ピーク額とした場合の平均決済時刻(シミュレーション手法については「次世代RTGSプロジェクト通信 第2号」を参照)。

2008年9月19日
短期金融市場取引活性化研究会

次世代RTGS総合運転試験(RT)フェーズⅡ第3回(9月7日実施) 市場取引に関する評価について

1. 評価

市場取引に関しては、次期短資取引約定確認システムを用いた試験などにより、RTフェーズⅡの目的である、「市場関係者の企画した内容に沿って、本番環境に極力近い環境で、新しい市場慣行に基づく取引・決済の運営方法を実践的に確認することができた」、と評価いたします。

「次世代RTGS後の市場慣行」の遵守状況^{※1}については、結果報告書、決済データの集計結果および短期金融市場取引活性化研究会が実施した参加者宛の任意のアンケート結果^{※2}から、概ね参加者が遵守できたことが確認できました。

※1 ◎当座勘定(同時決済口)で決済すべき取引が決済できたか

◎コール取引についての市場慣行

- ・遅くとも午前10時までに返金する返金先行ルール
- ・約定後1時間以内のスタート資金決済
- ・返金を前提とした資金放出の取扱い
- ・「優先」指定

などの遵守状況

※2 短取研が実施したアンケートでは、少数の参加者から、コール取引の「優先」指定漏れ、「通常口」「同時決済口」の決済口座相違、次期短資約定確認システムのサイン入力の遅れがあった、等の回答を頂きましたが、大半の参加者からは、何らかの問題があった等の回答はありませんでした。

2. 次世代RTGS(第1期対応)リリースに向けて

短期金融市場取引活性化研究会としましては、フェーズⅡの3回のテストを通じ、新しい市場慣行に基づく取引・決済について、次世代RTGS(第1期対応)のリリースに向け、実践的な確認を進めることができたと考えております。

同時決済口開設予定の各金融機関等は、「次世代RTGS後の市場慣行」<平成20年3月版>に記載されている市場慣行の再徹底を行うなど、移行に向けた準備に万全を期すようお願いいたします。

以上

<照会先>

短期金融市場取引活性化研究会幹事(みずほ銀行総合資金部) 木村淳一 Te103-3596-4254

2008年9月17日
 社団法人 東京銀行協会
 外国為替円決済制度運営部会

次世代RTGS総合運転試験フェーズⅡ第3回（9月7日実施）
 （外国為替円決済制度）に関する評価等について

1. 評価（支払指図電文の送信に関する申合せ（紳士協定）の遵守状況）

今回は、外為円決済取引および市場取引の繁忙日が重なる月末日（6/30）を想定日として、支払指図電文の送信に関する申合せ（紳士協定）*の遵守状況について確認を行ったが、前回の外為円決済取引の繁忙日を想定日とした場合の進捗率とほぼ同程度の比率となり（件数：第1回91%⇒第2回86%⇒第3回85%、金額：第1回69%⇒第2回61%⇒第3回66%）、一部の銀行を除いて、当該遵守が確認できたことから、今回のテストの目的は達成されたものと評価する。

今回のテストをもって、紳士協定の進捗率が全体として達成されたことを確認できたことから、外国為替円決済制度としては、次世代RTGS移行への準備が整ったものとする（9月21日に設定されていた予備日の使用は不要。）。

* 午前11時までに件数の65%、金額の55%を送信・決済する。

達成率 全体	件数 85%	金額 66%
（事前シミュレーション結果	件数 78.1%	金額 45.5%）

2. 次世代RTGS稼働に向けての検討課題等

- 一部の銀行において、オペミス・オペ遅延等により、紳士協定の達成がなされなかったが、次世代RTGS稼働においては、紳士協定が遵守されるよう再度徹底する。

未達銀行 4行

A行：支払指図の待機が生じるような支払指図の投入・流動性管理を行ったところ、予想以上の待機が発生したため、金額の決済進捗率が達成できなかった。⇒適切な支払指図の投入・流動性管理が必要。

B行：月末繁忙日のため取扱件数が多かったことから、オペが遅延し、件数の送信・決済進捗率が達成できなかった。⇒繁忙日における事務処理の効率化等の検討が必要。

C行：同時決済口の残高が低水準であったため、金額の決済進捗率が達成できなかった。⇒初期残高の積上げ等の見直しが必要。

D行：オペミスにより同時決済口への初期残高の振替えが遅延したため、金額の決済進捗率が達成できなかった。⇒オペミス防止策の再確認が必要。

以 上

〔本件照会先〕 東京銀行協会 事務システム部 外国為替円決済制度管理室
 佐方、井出野（TEL:03-5252-3750、3751）